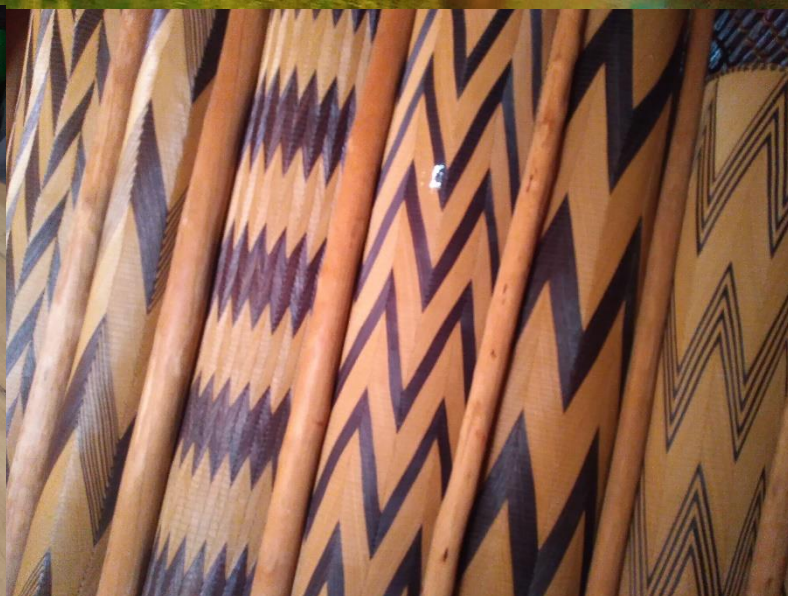


ワタシ的 想像を超えたルワンダ 3選

ルワンダと国の名前を聞いても、
「アフリカ大陸の一国」「何があるの?」「一体どんなところ?」
今回は筆者の「想像を超えた」をテーマに、ルワンダの地方都市を紹介します。



No.1 北部ムサンゼ郡



→街並みが日本（個人的に好きな四国）を思い出す。
この通りにあるダイアン・フォッシーのゴリラ博物館（無料）も見応えあり。



- ◆交通
首都キガリからバスで片道2時間
約250円
- ◆観光
ボルカノ国立公園各種ツアー
(ゴリラツアー、ゴールデン
モンキー、登山)

◆おしゃれ！な観光地◆
ここムサンゼ郡には、ルワンダに三つある国立公園のうち、最も有名な「ボルカノ国立公園」があります。ルワンダを含めた3カ国でしか見ることのできない絶滅危惧種のゴリラ、シルバーバックがGPSで管理されていて必ず見ることが出来ます。（価格は約十五〇〇ドルとお高め）。
そして、観光地であるからか、街並みも道路が整備されており、おしゃれなお店がちらほら。



Crema Cafe

Migano Cafe

◆おすすめ◆
各種マフィン、ブラウニー、ショコラドリンク

ブラウニー、ショコラドリンクは、某カフェチェーン店のフラペチーノにそっくりとの噂（日本で飲んだことがなかった…）。そんな私でもおすすめしたくなるおいしさ。

マフィンはふわふわしつとり。先日スペイン出身のルワンダ在住者さんからもおすすめされた一品。

Crema Cafe

◆おすすめ◆
各種ベーグル（ハムやチーズのサンドもあり）、ブラウニー、シナモンロール

お食事ベーグルが食べられることにひたすら感動。落ち着いた雰囲気と、スタッフさんも丁寧で気さく。大量買いして自宅へ持って帰り、二・三日で食べきってしまった経験あり。

Volcana Lounge

◆おすすめ◆
ラザニア（ほうれん草、ミート）

ここは、海外からの旅行者の方も多く見かける。テラス席からは、天気によければピソケ山が見える。近くにアートミュージアムもあるので、途中でちよっと寄ってゆったりするのも。

↓ Volcana Lounge



↑ Migano Cafe

No.2 南部ニャンザ郡



→街並みがこちらもとても整備されている。
伝統的な方法で頭にいすを乗せて運ぶ作業員さんが通りかかるなど、ルワンダらしさも。



◆歴史とアートの都市◆

かつてルワンダの王宮があった場所。国立王宮博物館で、現在まで残された貴重な家具などを見ることができまます。多くは虐殺の際に盗まれてしまったとのこと。

最近、海外ボランティア組織やニャンザ郡が共同となり、観光事業にかなり力を入れています。通りかかると、青色の看板が多数設置されていていて、ひと目で主要な名所がわかるようになっていきます。

ルワンダ南部の郡の中で特に発展がめざましく、個人的に注目している場所です。

◆交通

首都キガリからバスで片道2時間
約 230 円

◆観光

国立王宮博物館、国立アート博物館、陶芸（伝統ポットや食器づくり）体験



→ 国立 王宮博物館

国立王宮博物館

◆みどころ◆
伝統家屋、王宮の展示、伝統牛と歌

ガイドがついてひとつずつ説明してくれる。家屋にも立ち入ることが出来る。「伝統牛と歌」は別料金のオプションだが、触ることもでき迫力満点。以前、「君のこと知ってるから」と博物館まで特別に送ってくれた大手バス会社 Volcano のマネージャーさん。

Top size bread

◆おすすめ◆
クッキー

先輩隊員さんに教えてもらったバス停近くのパン屋。ザクザクのクッキーは、バラ売り一枚六円ほど。最近では地元の人を常に見かけるようになり、午後売り切れの日も。月に二・三回活動で通っては毎回訪れる。

Nyanza Cultural Trails

◆みどころ◆
トレッキング

ルワンダ政府、ニャンザ郡、GIZ(ドイツ)専門家、国立博物館がタッグを組んで作り上げたトレッキングツアー。先日、KOICA(大韓民国)ボランティア観光隊員さんからの紹介で、昨年十二月に行われたプレツアーに参加させてもらったので他の号でまた詳しく紹介します。

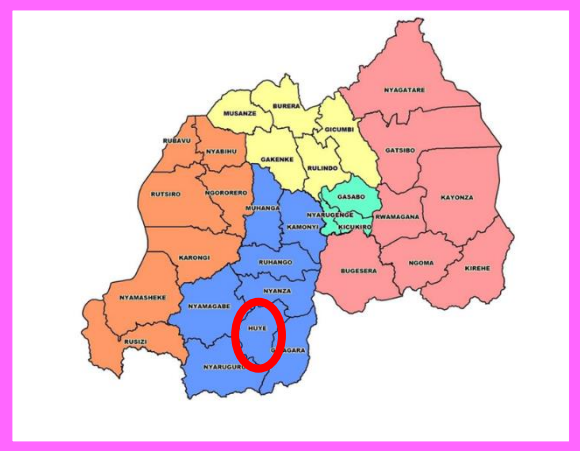


Top size bread



Nyanza Cultural Trails

No.3 南部フイエ郡



→首都キガリから西部や、隣国ブルンジへつながる主要道路が通り、作業用トラックをよく見かける。ある日突然現れたビール会社の「ようこそ」の看板と。



- ◆交通
首都キガリからバスで片道3時間
約 330 円
- ◆観光
国立民族博物館、軍飛行場、
フイエマウンテンコーヒーツアー、
アイスクリーム

◆ルワンダ第二の都市◆
最後は、私の任地フイエ郡です。第二の都市と呼ばれ（最近では他の都市も発展していて諸説あり）、日本の観光ブック「地球の歩き方」東アフリカ編」にも掲載されているほど有名な場所です。日本国内のみならず、海外からの観光客も多いように感じます。
協力隊応募の際もまったく知らず、別の理由でフイエを選び、来てみたらこんなに住みやすいところ！
今回は、一年以上住んだ私の経験から、ダイープなフイエを紹介します。



バー (牛タン串)

ルワンダ国立 大学付近

バー(店名不明)

◆おすすめ◆
牛タン串

先輩隊員さん直伝のローカルなバーにある牛タン串。やわらかくてボリューム満点。この大ききで一本百三十円ほど。付け合せはグリーンバナナ(甘いバナナ)のフライ。
牛タン串は在庫がないことが多く、事前確認要。

サル

◆みどころ◆
家族で大移動

家族でファイエ中を移動しているサル。見るたびに子サルが増えていく。基本、自然の食べ物にしか興味がなく人間に襲いかかることはしない。ただし、食べ物を与える人がいると、近寄ってくることもあり狂犬病には注意を。

ルワンダ国立大学付近の通り

◆みどころ◆
学生のにぎわいと自然

学生都市でもあるファイエは、小学生から大学生まで幅広い世代の若者でにぎやか。そのうちのひとつ、ルワンダ国立大学キャンパス付近は、自然が豊富で散歩するのも気持ちがいい。一本道を入ると森で暗い場所もあるので、明るいうちに散策するのがおすすめ。

サル

